

平成 28 年度学校評価 自己評価書

2017 (平成 29 年) 3 月

学校法人高橋学園

千葉学芸高等学校

1. 学校教育目標

〈1〉 建学の精神と教育目標

建学の精神 「 創 造 」	
教育目標	1. 心の創造 強い精神力と思いやりの心 2. 智の創造 知性と判断力 3. 美の創造 感性と技芸

建学の精神

建学の精神は私立学校にとってその教育の最も根幹となる目標を示すものであり、すべての教育活動を建学の精神に位置づけて行われる。千葉学芸高等学校では、建学の精神「創造」のもと、美しい人類文化の創造にあたる実力を備えた人材の育成を図る教育活動を展開する。

教育目標

教育目標は、建学の精神「創造」の具現化のため、心・智・美の観点から獲得を期待する知識技能能力の内容を示す。

心の創造においては、物事への集中や忍耐のできる強い意志を備えつつ、優しい思いやりも併せ持つ人間性の涵養を図る。

智の創造において、知性を磨き、知識を蓄積するのは正しい判断のできる理性を備えるためである。

美の創造においては、美しいものを美しいと感じ、それを言葉や身体で美しく表現できる能力や技能の獲得を図る。

〈2〉 教職員および生徒の行動目標

教育目標の実現のため教職員は、以下の信条のもとに教育活動にあたる。

《職員の信条》

- (1) 建学の精神を生かし、日本人の特性と校風を高揚せん
- (2) 自己の誇りと責任を自覚し、全機能の発揮に当たらん
- (3) 親和・協力の心を基とし、内容の充実を求めん
- (4) 良き社会人たる素質を磨き、生徒の進路に万全を期せん

生徒は、以下の誓いのもとに学校生活の充実を期す。

《誓いの言葉》 (1) よい伝統と、よい校風をつくります (2) はつらつとした若さで学力・技能を磨きます (3) 愛敬の心を生活に表します

また、以下の学年目標に沿って自己の研鑽・向上を図る。

1 学年の目標	《自学》 私たち1年生は、次の目標をしっかりと実行して進みます。 (1) 高校生としての礼法・言語・動作を立派に築きます (2) 友情・協同の精神を発揮します (3) 自信の持てるまで努力いたします
2 学年の目標	《充実》 私たち2年生は、学校の中心となり、充実した学年を築きます。 (1) 自分の将来の方針をたて、目標達成のために根強い努力をします (2) 愛校・友情の精神を一日の生活に表します (3) 自信の持てる力と人格を築きます
3 学年の目標	《独立》 私たち3年生は、自分の将来の方針をたて、最高学年として人格を磨き、よい社会人となります。 (1) 全校のよき指導者となります (2) 社会にたつ一切の準備をいたします (3) 自己の誇りと責任を自覚し、協力貢献を実践します

〈3〉年度目標

以上を踏まえて、平成28年度の目標を以下のように設定した。

平成28年度学校目標 『チームワーク』

One Up（ワンナップ）は「ひとつひとつスコアアップを図ること」。

千葉学芸高校として17年目。本年度のスローガンは「チームワーク」として、協働して創造を目指す仲間関係の確立を目指していくことを掲げた。

クラス、クラブなど身近なグループでのチームワークを積み上げながら、チーム千葉学芸としての学校全体のさわやかなチームワークを育てたいとの思いがある。

26年度の目標であった「輝きは私から」により力強い個を確立した上で、27年度目標の「コミュニケーションスキル」により理解力・表現力を磨き、個の輝きに周囲の輝きを加えてチームを作り育てることにより、個人ではできない最高のパフォーマンスを発揮することができる。

2月1日に学園創立130周年を迎える年度であり、記念式をはじめとする記念事業の企画実施とともに130年を振り返り、温故知新、次の時代に進むべき方向を見定めていきたい。

タブレット端末の活用に関して、教職員に端末を配布し、授業での活用と、校務分野での活用を開始して2年目となる。ベネッセ社の学習支援システムClassiを導入し、試行する課程で課題を抽出し、本格運用に向けての準備を行う。

また、2007年にEラーニングを導入してから10年となる。主要5教科について基礎からセンター試験受験レベルまで単元ごとに学べるもので、中学校向けの教材もあるので弱点の補強にも役立つ。全国でも早くから取り組み実績をあげているが、より活用度を高め、学力向上につなげたい。2019年度に文部科学省が実施予定の高校生基礎力テスト（仮称）の実施に備えて、基礎学力の定着・充実のための学習支援の在り方についても研究を行う。

また、公職選挙法の改正により、選挙権の開始年齢が満18歳となる。3年生の一部は、28年7月の参議院議員選挙から投票ができるようになる。これを機会に、政治や政策など、日本の社会を動かしている仕組みについて一層理解を深めるよう努める。

施設設備面では、体育館1階講堂の特定天井（高さ6m面積200㎡以上の吊り天井）の落下防止対策のため、吊り天井の撤去と軽量天井材直接固定方式に変更する耐震性向上工事を、文部科学省補助金を活用して実施する。

上記目標に主眼をおきながら、人格形成・コミュニケーションの充実、学力向上・技能獲得向上・資格取得、進路開拓などを目指して教育学習活動にあたる。特に特性の伸長、人間性の育成、技能教育を重視し、色彩教育、情報教育、福祉教育、環境教育、国際教育などに関連する授業や学校行事、クラブ活動などの諸活動の展開・充実を期す。

2. 学校の概要

学校法人高橋学園 千葉学芸高等学校

〒283-0005 千葉県東金市田間 1999 番地

TEL 0475-52-1161

FAX 0475-52-1163

インターネット <http://www.cgh.ed.jp/>

電子メール info@cgh.ed.jp

平成28年度	学級数・生徒数	1学年	4学級	175名
		2学年	4学級	120名
		3学年	4学級	116名
		全校	12学級	411名

学校の概要については、インターネットホームページで公表中。また、創立130周年記念誌等の冊子にて紹介している。

3. 各部門の活動内容・活動状況（学校要覧）

学校の特色、および以下の事項等については、平成29年度学校要覧（冊子全74頁、関係者向け5月刊行）に記載。

- ・学校施設・設備、校舎面積
- ・学校行事の内容
- ・生徒会活動の内容
- ・クラブ活動の内容
- ・教職員の担当学年、担当教科、校務分掌、授業の持ち時間数、所持免許状の種類
- ・校内研修の内容
- ・学習指導（授業時数、時間割、総合的な学習の時間の内容）
- ・学籍・出欠席統計
- ・生徒指導上の諸問題及びそれに対する学校の対処や指導の状況
- ・進路の状況
- ・安全管理・保健管理（保健安全、防犯対策、防災対策）
- ・各部門の予算執行状況
- ・父母の会活動状況、地域との連携等の状況

4. 自己評価（平成28年度）

A. 全般の評価

（1）評価

全般評価：良好

（2）課題と改善策

全般に関わる特に重要な課題として、生徒募集および学力の向上の2つを取り上げる。

次に、平成28年度のトピックとして、創立130周年記念事業を述べる。

生徒募集状況の課題

平成28年度の新入学生徒数は前年+43名と、30%あまりの増加をみた。近郊の中学卒業生数が減少する中で、近隣公立高校の学級減はなかったが、千葉市を含む広域での公立高校募集数の変化があったこと、私学の定員割れが続き環境が悪化する中でも広報部を中心に生徒募集の努力をした結果であり、依然として収容定員の6割程度ではあるが、増加を図った努力の成果があった。特に、印旛地区中学校長を経験した新たな広報担当職員を迎え、昨年度に経験を積んだ若手広報人材も熱心に活動した成果であると考えられる。千葉市で+20など、人口増加地域からの志願者入学者増が好材料となった。公務員コースを志望する学習成績が良好な生徒も見受けられた。

平成29年度の生徒募集では、公立学校の入学定員について、山武地区では中学校卒業生数の減少と、累積的な過剰枠（＝私学の未充足枠）に対応し本来は5学級程度の削減が必要であるのに、定員削減が0で、昨年に続き厳しい状況であったが、本校平成29年度入学者は前年並みの171名（募集定員の61%）を得た。平成29年度入学生の生徒募集では、広報担当職員を公立中学校長経験者2名態勢に増員した効果もあり、厳しい状況下ながら悪化を抑制することができた。授業料減免制度や、公務員コース、福祉コース、芸能コース、ロボット活用などの取り組みが魅力を高めている。

本校の在学生の教育向上・進路状況は良好であり、困難な生徒募集状況は近隣公立学校定員過剰・公私学費格差等の外部要因によるものが主であると考えられる。公立高校の募集人員増減により直接左右される状況は脱していく必要があり、受験生から選ばれるための魅力を一層高めていく必要がある。生徒募集の拡大のためには、内容の充実、広報・PRの工夫等の自己対処方策の充実発展により改善を図っており、授業料減免制度や奨学金制度の周知により私学を敬遠する意識の解消に努めている。その結果、新入生では約6割が授業料減免制度を利用するなど、周知効果は高まっており、公私学費格差を乗り越える状況が生まれつつある。

今後は、環境悪化にも耐える体質改善を図るとともに、一層の広報努力によって生徒獲得を展開しなければならない。中学校教員も世代交代しており、本校ならではの数々の優れた特質について、中学校現場で十分には知られていないことが強く感じられる。より丁寧でわかりやすい広報が必要であり、広報活動の質的量的改善も図っていく必要がある。

また、県教委による高等学校再編計画の動向を注視しながら、展望をもって取り組んでいきたい。

学力の向上

21年度目標に言語表現力の向上を掲げて以来、引き続き国語科および学年会による漢字学習指導、作文指導、全校漢字学力テストの複数実施、校内漢字検定の実施を行っている。常用漢字の書き取りについて、個々の生徒に於いて繰り返しの学習成果は着実に現れ、作文でもほとんど漢字が書けなかった生徒が、適切な漢字かな交じりで文章を書けるようになるなどの効果が生まれている。基礎学力を身に付けたことに自信を深めた生徒が他の学習に意欲的に取り組む姿もみられ、教師による学習の働きかけと継続的な指導が奏功している。校内文芸コンテストも第3回を迎え、年間を通じて授業課題などで提出された作文や文芸作品から選ばれた優秀作品も質的に向上をみた。

学力上位者については、フレッシュタイムワークと称する朝夕の特別学習講座に加え、eラーニングビデオ教材を活用して特別進学に対応する学習に取り組み学力向上を図った。城西国際大学・東京理科大学・千葉工業大学をはじめ多数の指定校推薦枠を得ているほか、難関私立大学や大学入試センター試験を経て国立大学（千葉大学）に挑戦するレベルの生徒もあり、進学コース設置の効果が現れつつある。

近年は看護学部・看護学校への進学も多く見られる。理学療法を専攻するものもあり、医療福祉系に伸びがみられるので、推薦制度も活用しながら今後も拡大を図りたい。また法政大学にスポーツ推薦（ゴルフ）で進学があった。

創立130周年記念事業

2017年2月1日に創立130周年記念日を迎え、当日、記念式を催行した。1987年の創立100周年記念式典のあと、直近では創立125周年記念式典を実施したが、それからわずか5年ということで、今回は校内のみで祝う記念式の形態をとり、来賓としては千葉県知事代理として総務部学事課飯島里美副課長、志賀直温東金市長、佐瀬照美父母の会長、大津美恵同窓会長にご参席をいただき、130年の歩みのビデオ上映などを行った。次回は創立140周年、150周年に記念式典を挙げる予定である。

創立130周年記念誌は、昨年度から企画し、夏休みに各分担での原稿執筆を行い、秋から編集作業を本格化した。120周年記念誌を刊行した際のデザイン業者に再度編集を依頼し、前回のデータを活用するとともに、クラウドストレージなどの最新の電子技術を活用して推敲編集を重ね、組版データの納品を受けて、印刷所に発注した。96ページ of 美しい冊子を、生徒および関係者に配布した。また、記念品として定規、および式菓子も記念式にて配布した。

B. 部門ごとの評価

（学校要覧に記載）

5. 学校関係者評価

学校運営会議開催（7月）。

保護者（5月）および生徒（2月～3月）にアンケートを実施した。

以上